

令和5年度教育研究活動報告書

氏名	堀江進也	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	Ph.D.	職位	准教授
専門分野	応用ミクロ経済学		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	入門経済学（ミクロ）、ミクロ経済学1、ミクロ経済学2、経済経営情報実習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b、基礎演習1
大学院	ミクロ経済学特論
II 研究活動	
現在の研究テーマ（3つまで）	
（1）生産関数の集計化	
（2）サプライチェーンを通じた災害による経済への影響	
（3）災害リスクと居住地移転	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R5・R4・R3	
R5	〈学会発表〉“Constructing a Supply Chain Economy via Aggregation” 共著, 2024年 8月, 日本数理経済学会方法論分科会（査読あり） 〈論文〉“What Drives People to Return to Fukushima?: An Assessment using Decision tree Approach”, OCE Discussion Paper, No009
R4	〈学会発表〉「異質資本を含む経済の集計」, 共著, 2022年10月, 日本経済学会2021年度秋季大会（査読あり） 〈学会発表〉“Uzawa, Solow and Aggregation”, 共著, 2022年6月, 日本経済学会2022年度春季大会（査読あり）
R3	〈学会発表〉「集計経済の構築 -集計TFPと物価-」, 共著, 2021年6月, 日本経済学会2021年度春季大会（査読あり） 〈学会発表〉「経済の集計-多数企業から複数産業そしてマクロ経済へ-」, 共著, 2021年10月, 日本経済学会2021年度秋季大会（査読あり）
R3	〈学会発表〉「サプライチェーン経済の構築」, 共著, 2021年10月9日, 日本経済学会2021年度秋季大会（査読あり） 〈論文〉“Construction of an Aggregated Economy - Aggregated TFP and Price Level -”, 共著, 2021年8月, Kwansu Gakuin Discussion Paper Series, No.228.
R2以前の主な研究業績	
（1）〈論文〉「地震による直接被害額のリアルタイム推計-新モデルの開発と応用-」, 共著, 地域安全学会論文集, 2019年5月, Vol.36, pp.1-10.	
（2）〈論文〉「地場産品のブランド名変更が消費者の購入行動に与える効果」, 共著, 国民経済雑誌, 2018年9月, Vol.220, No.5, pp.49-61.	
（3）〈論文〉“Procurement Auction with the Probability of Corruption”, 共著, 国民経済雑誌, 2018年5月, Vol.217, No.5, pp.73-85.	
（4）〈論文〉「大災害からの生活水準の回復」, 共著, 国民経済雑誌, 2017年9月, Vol.216, No.4, pp.1-14.	
（5）〈論文〉“Why Do People Stay in or Leave Fukushima?”, 共著, Journal of Regional Science, 2017年12月, Vol.57, pp.840-857.	
（6）〈論文〉“The effect of attachment and information seeking on the displaced disaster victims' decision making”, 共著, Jplos One, 2016年6月, Vol.11, No.3, e0151928.	
（7）〈論文〉“A real options approach to environmental R&D project evaluation”, 共著, Environmental Economics and Policy Studies, 2016年12月, Vol.18, No.3, pp.359-394.	
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R1・R2・R3	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本経済学会、日本応用経済学会、環境経済政策学会	